

nikkor club

282
2025 AUTUMN

特集
五感震わす秋を切りとる

nikkor
club





都市の情景を面白くさせる要素に「反射」は欠かせません。特に最近の建築物はガラスなどで構成されたものが多く、不思議な鏡の世界を生み出します。反射は虚像と実像をリアルに重ねて、天然の合成写真のような独特な表現となります。加えて都会的でシャープなエッジが、都市像の中にデザイン性を生み出すのです。 Z5 II・NIKKOR Z 24-50mm f/4-6.3・f/8・1/400秒・ISO400



PHOTO HUB REPORT



作品について撮影者の皆様にお話し
いただきました



アドバイザーの先生方からもご自分
の作品についてお話しいただきました

2

025年7月15日(火)〜7
月28日(月)、ニコンプラザ東
京 THE GALLERYにて「第2回
PHOTO HUB写真展」を開催いたしました。

7月19日(土)には、出展者の方にお越しい
ただき、ギャラリートークを開催しました。
THE GALLERY内はお集まりいただいた皆
様ご自身の作品の前で記念撮影をし
たり、ワークショップでお知り合いになっ
た方との会話を楽しんだり、開始前から熱
気があふれていました。今回は関東近郊だ
けでなく、北海道、青森、鹿児島など遠方か
らお越しいただいた方も多く、「今日は〇〇
から…」とお話したくたびに会場から「お
お」と驚きの声が続いていました。お越
しいいただいた皆様、ありがとうございました！
ギャラリートークは始終和やかな雰囲気
です。出展者の方がそれぞれ撮影され
た状況や意図などをお話いただき、参加
の皆様もうんうんとうなずきながら興味深
く聞いていらっしゃいました。あつという
間に時間が経過し、盛況のうちにギャラリ
ートークは終了いたしました。今回2回目
の開催となりました「PHOTO HUB写真展」
ですが、第3回目も開催を予定しておりま
すので、次回も皆さまのご応募お待ちしております！

ギャラリートークの後は会場を移動し
て、「PHOTO HUB交流会」を実施いたしま
した。

最初は緊張気味だった皆さまも、どんど
んお話がはずみ、交流会も和やかな雰囲気



に包まれました。途中、アドバイザーの先
生方に纏わるクイズを事務局から出題。見
事一位に輝いたグループには、「ニコール
クラブロゴ入りタンブラー」をプレゼント
いたしました。
普段PHOTO HUB上でコメントをしあっ
ていても、直接お会いするのは初めてだっ
た方も多いのではないのでしょうか。皆様熱
く写真について、撮影についてお話をされ
ていたのが印象的でした。またお会いでき
るのを楽しみにしています！

CONTENTS

特集

08 五感震わす秋を切りとる

写真・解説 助川康史／半田菜摘／もなみん／岡本洋子

02 PHOTO HUB REPORT

コンテスト

- 32 サロン・ド・ニッコール カラーの部
選評：熊切大輔（1～3席）／大西みつぐ（佳作）
- 44 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部
選評：ハナブサ・リュウ
- 52 ネイチャー・フォトサロン
選評：三好和義
- 60 ステップアップ・フォトサロン
選評：秋山華子
- 65 ワンポイントアドバイス
- 66 総評／得点表
- 68 予選通過者一覧

作品

- 04 THE GALLERY企画展
「そこにいることによって現れる」 秋山華子
- 06 THE GALLERYセクション展
「知床の美 ～星降る大自然に宿る、
四季の輝き～」 平賀和明
「L' intervalle -ラターヴァル-」 広谷勇樹
- 表4 秋山華子×Z50II

製品情報

- 28 PRODUCT REVIEW VOL.32
フレキシブルカラーピクチャーコントロール
上田晃司
- 72 ニッコールクラブ会員限定
「カジュアルカメラリュック」
「ND オリジナル 帆布カメラリュック」
特別販売のご案内



表紙写真 助川康史

朝霧に煙る陸羽東線堺田駅を上りの一番列車が力強く出発する。清々しい秋の一日の始まりを予感させる、感動的なシーンだった。現在この区間は大雨災害の復旧工事中。2年後の秋にはこの美しい光景に再び出会えるだろう。

Z6 II・AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR + マウントアダプター・f/11・1/500秒・ISO400

連載

- 表2 Photography Portfolio Vol.6
熊切大輔
- 20 インスピレーション 第6回
私が影響を受けた
『映画監督 マイケル・ベイ』 上田晃司
- 22 多彩な現場でも
その実力を発揮するニッコールレンズの魅力に迫る
秋景×NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S
写真・解説：星野佑佳
- 24 THE AWARD WINNER
第49回(2024年度) 伊奈信男賞 受賞作家
紀 成道 文：タカザワケンジ
- 26 エプソン 楽しくきれいにプリント講座 Vol.25
プリントの疑問・質問、お答えします! Part.2
- 30 アベっちの使った! 撮った! vol.10
NIKKOR Z 35mm f/1.2 S 阿部秀之
- インフォメーション
- 69 NCニュース
- 73 Let's Go Nikon College!
秋の光を捉える、心揺さぶる紅葉撮影
「『秋』の切りとり方を考える」 中山博喜
- 74 会員写真展 PickUP!
「田園」松山和照／「北の森の和毛(にこげ)たち」佐藤 章／
「フランク・ロイド・ライトに魅せられて
～100年目のヨドコウ迎賓館に挑む～」ニッコールクラブ神戸支部
「街角原風景」疋田 稔／
- 76 写真展スケジュール
- 77 支部だより・支部展情報
- 78 イベントレポート・イベントニュース
- 表3 自分らしい表現を Nikon College
- 巻末 会員向け販売 FAX注文票
会報283号フォトコンテスト応募規定



THE GALLERY 企画展

秋山華子

「そこにいることによって現れる」



あきやま・はなこ
奈良県出身。大阪芸術大学写真学科卒業、同研究室勤務を経て、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブアドバイザー。

にみえるものは、
はじめからこちらの都合で見えている
にすぎないと思っている。
しかし、ふと立ち止まったとき、
まるで世界の方がこちらを見ていたように感じる
ことがある。
午後の光、路地の影、行き止まりの道。
そんなものが、まるで古い夢のように現れて、
こちらを射抜いてくる。
その瞬間、風景と私との間に、
奇妙な了解が生まれる。
本展は、そうした了解の痕跡だ。
日常の綻びの中に、時間がふっと止まり、
わたしという存在の居場所が、
一瞬だけ浮かび上がる。
つまりそれは、
どうということのない記録でありながら、
わたしにとっては、世界そのものの応答である。

ニコンプラザ東京 THE GALLERY 2025年10月7日(火)～2025年10月20日(月)
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY 2025年10月30日(木)～2025年11月12日(水)

本展の関連イベントとしてトークショーを開催いたします。詳しくはP.71 NCニュースをご覧ください。
開館時間…10:30～18:30(最終日は15:00まで) 休館日…日曜日
※予告なく写真展の会期・開催時間が変更または中止になることがあります。事前にご確認の上お越しください。

平賀和明

「知床の美 ～星降る大自然に宿る、四季の輝き～」



ひらが・かずあき
Photographer & Movie Creator。
Nikon Professional Services会員。
一般社団法人 日本旅行写真家協会
正会員。北海道を発信する写真家ネッ
トワーク 写真家会員。公益財団法人
知床財団 法人賛助会員。学生時代に
Nikon F2フォトミックを手にして以来
のニコン派。放送・映画の映像制作環
境構築に携わった経験も活かし、東
京・沖縄を拠点に「写真と映像を1オベ」
で活動中。『写真と映像で観光・地域
産業に貢献』をテーマに、各地の絶景・
星景／文化芸術・公演／地域産業など
の写真撮影やタイムラプス、映像制作
に取り組んでいる。

私
がこの憧れの地「知床」を初めて訪れた
のは2018年。
山と海の壮大な絶景がコンパクトに
凝縮された「世界自然遺産・知床」の多様な自
然に心を奪われ、それ以来、四季折々に何度も
撮影に赴くようになりました。

夜にはプラネタリウムのような満天の星空や
天の川が広がり、山・海・空が季節や時間帯に
よって全く異なる表情を見せてくれるのも知床
の魅力。

今回の写真展では、ニコンZだからこそ描き
出せた知床の四季折々の絶景を、写真に加え、
タイムラプスや4K映像とともにお届けします。

ニコンプラザ東京 THE GALLERY 2025年10月21日(火)～11月3日(月)
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY 2025年11月13日(木)～11月26日(水)

開館時間…10:30～18:30 (最終日は15:00まで) 休館日…日曜日

※予告なく写真展の会期・開催時間が変更または中止になることがあります。事前にご確認の上お越しください。

広谷勇樹

「L' intervalle -ラターヴァル-」



い
つからか、目に見えない「狭間」を意識するようになりました。自分と他者、親と子、写真と何か。世界のあらゆる場所に、言葉では表しきれない狭間が存在している気がしています。その曖昧で確かな場所には、感情や想い、時には希望や祈りすら漂っています。

写真一枚一枚は、それぞれ異なる「狭間」の断片を切り取ったものです。私にとっての狭間は、理想や希望が重なる「願いの」ようなものでした。特に注目したのが、「偶然」と「必然」が重なりあう瞬間。その重なりの中に現れる「狭間」には、化学変化のような不思議な力が宿っていると感じています。

展示された写真をご覧ください。時に正解はありません。

私が見る「狭間」と、あなたが見る「狭間」は、きっと違うはずです。あなた自身の「狭間」を見つけて、何かを感じてもらえたら嬉しく思います。

ひろたに・ゆうき

大阪府出身。カメラメーカーとのタイアップ、雑誌掲載、写真講師、個展開催など、多岐に渡って活動。SNSなどでは、被写体の感情や性格、空気を伝えながら、日常の中で見逃してしまいがちな「狭間」をテーマとし、独自の解釈で表現している。今後は写真集の出版、国内外での展示活動など、作品発表を中心とし活動していく。

ニコンプラザ東京 THE GALLERY 2025年11月18日(火)～12月1日(月)
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY 2025年12月11日(木)～12月24日(水)

開館時間…10:30～18:30 (最終日は15:00まで) 休館日…日曜日

※予告なく写真展の会期・開催時間が変更または中止になることがあります。事前にご確認の上お越しください。

A close-up photograph of a field of pink cosmos flowers. The flowers are in various stages of bloom, with some fully open and others as buds. The background is a soft, out-of-focus expanse of more pink flowers, creating a dreamy, bokeh effect. The lighting is bright and natural, highlighting the delicate petals and green foliage.

nikkor club

五
感
震
わ
す

秋を切りとる

秋の空気は目に見えない、さまざまな要素を纏っている。

風の匂い、足元の音、光の揺らぎ――

五感を連れて歩けば、世界はもっと深く、

もっとやさしく撮れるはず。

鉄道も動物も自然も、ちよつとしたお散歩だって。

気の赴くまま、秋の一瞬をカメラに閉じ込めていく。

第1章 鉄道×秋――音と風をのせて走る秋の列車を追って 助川康史

第2章 動物×秋――紅葉と動物たちの季節 半田菜摘

第3章 お散歩×秋――秋を切りとる感覚で歩くスナップ撮影 もなみん

第4章 自然×秋――五感で感じる紅葉の風景 岡本洋子

nikkor
club

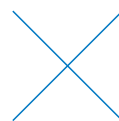
Zf・NIKKOR Z 135mm f/1.8
S Plena・f/2.1/5000 秒・
ISO100
(撮影：もなみん)



雲海から透けて見える街灯りが幻想的で、夜半から撮影を始め、迎えた朝。人工光に照らされた建造物の輪郭が、ピシッとシャープに描かれて、滑らかな雲海とのよい対比になった。ほんのり色づく朝の空も濁りなく抜けのいい発色で表現してくれている。Z8・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・f/5.6・2秒(−1.3補正)・ISO800

VOL.6

秋景



**NIKKOR Z
70-200mm f/2.8 VR S**

NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR Sは、私にとって「作品成功率、最強」レンズである。今、使っているZ8と組み合わせると、女性の私にとってはまあまあ重く、正直なところ稼働率はそれほど高くない。が、撮影画像を選別してみると、「ちゃんと作品にできている率」が圧倒的に高いのだ。

広い風景の中で、特に魅力的な部分を切り取ることのできる焦点域であることはもちろん、せっかく拔群の構図が決まっても、ピントのズレや描写の甘さ、手ブレ、色のくすみ等で「残念だけど、使えない」といった「撮りこぼし」が、ほぼ皆無なのだ。

そう、私がこのレンズを使う一番の理由は、卓越した「描写力」が目当てである。ピントを合わせるポイント、絞り値さえ機材に伝えれば、最高のクオリティで風景を描き出してくれる。その描写力は、画面の四隅まで行きわたり、f/2.8の開放値でも隅が粗くならず鮮明だ。

以前、ダイヤモンドダストの撮影で、開放F値で撮った画像の四隅を他のレンズと比較してみたら、その差は歴然で、このレンズの隙のない圧倒的描写力に驚嘆した。以来、「ここぞ」という時にはこのレンズを使うことにしている。重さは三脚にセットしてしまえば気



前ページと反対側の眺めで、インターバル撮影の中の1枚。夜明けとともに、雲海は消えてゆき、下界の町並みが露になってきた。朝一番の赤い光に照らされた家々は、画面端でも鮮明に描写されている。Z8・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・PLフィルター・ハーフNDフィルター・f/13・1/15秒(−0.7補正)・ISO100



Z8・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・PLフィルター・f/16・1/30秒・ISO 100

赤い彼岸花の群生地、なぜか数輪だけ、白い彼岸花が咲いていた。手持ち撮影で、f/2.8開放値、1/1000秒から少しずつ絞りながら撮っていく。f/16では1/30秒になったが、VRオンでブレの心配はない。また、ファインダー内の像もぐらつかず安定するので撮りやすい。

逆光性能にも優れ、ゴーストやフレアが出にくいから、画面に太陽を入れた力強い表現も躊躇なく選べる。そしてオートフォーカスの速さと正確さも気持ちがいい。私は撮影直後に等倍大でピントチェックをするのだが、「あっぱれ！」の一言だ。アウトフォーカス部分のボケ味もまろやかな美しさで、開放F値付近の色々な絞り値でボケ

にならないし、三脚座で縦横構図を迅速に変更できるのは、作品のバリエーションにもつながる。手持ち撮影の時は、VR機能が威力を発揮する。スローシャッターでもブレにくいだけでなく、構図を決める時に視野が安定して見やすいのだ。



Z8・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・ISO 100・(加算平均合成3枚)①f/5.6・1/80秒②f/2.8・1/320秒③f/2.8・1/320秒・PLフィルター

コスモスと鳥居。間にある草が煩雑だったので多重露光撮影した。近くの花と遠くの鳥居にピントを合わせた2枚とアウトフォーカスの1枚をカメラ内で合成。フォーカスブリージング※が抑制され、ピント位置が変わっても画角がずれず、花のボケ味が生きた。

ほしの・ゆか
京都市生まれ、在住の写真家・フォトエッセイスト。2000年の海外放浪の旅をきっかけに、帰国後は日本全国を旅しながら風景を撮影する傍ら、2005年から地元京都の風景や歳時記も撮影している。

具合を探るのが楽しくなる。
また、フォーカスブリージング※が抑制され、ピント位置をずらしても画角が変わらないため、このボケ味を生かして多重露光撮影をすることも多くなった(ピントの合った一枚目の画像に、ピントをずらして開放値にした2枚目をカメラ内加算平均合成)。
「このレンズで撮影して良かった！」
撮影後に、そう実感させてくれるのが、このレンズである。

自由な色の表現が楽しめる新機能が登場!

フレキシブルカラー ピクチャーコントロール

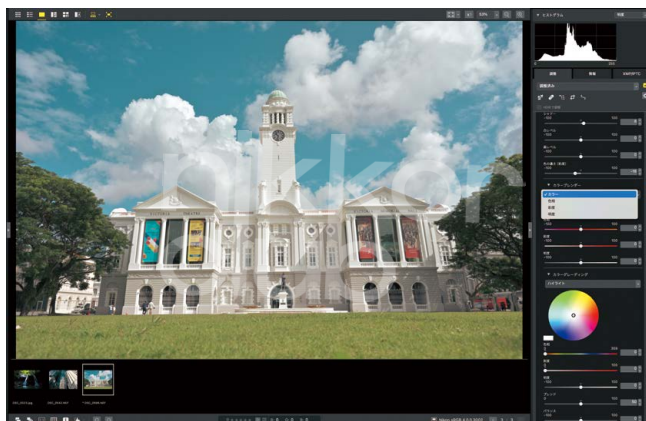


「NX Studio」との連携で、多彩な調整が行えるピクチャーコントロールを作成。
自分好みのカラーを幅広く表現することができる。



上田晃司=写真・解説

うえだ・こうじ 米国サンフランシスコに留学し、写真と映像の勉強をしながら、テレビ番組、CM、ショートフィルムなどを制作。帰国後、フリーランスのフォトグラファーとして活動開始。ライフワークとして世界中の街や風景を撮影。近年では、講演や執筆活動も行っている。ニッコールクラブ アドバイザー・ニコンカラー講師。



トルコに旅に行った際に感じた色を、フィルムライクになるように作成した。トーンをやや柔らかめに設定し、ハイライトと中間にアンバーが入るようにカラーグレーディングを調整している。シャドーには青緑を薄く入れている。

フレキシブルカラーピクチャーコントロールはNX Studioを使い調整を行う。ピクチャーコントロールをフレキシブルカラーに設定すると「詳細調整」「カラーブレンダー」「カラーグレーディング」の項目が表示されるので、細かく調整してみよう。

**NX Studioでカラーを作成し
対象のカメラにデータを登録**

今回はZ6Ⅲから搭載された「フレキシブルカラーピクチャーコントロール」(以下フレキシブルカラー)の魅力を紹介しよう。フレキシブルカラーは、自由度の高い多彩な色調整が可能なピクチャーコントロールのこと。「NX Studio」を使い、自分の色を作成してメモリーカードに書き出すことで、対応しているカメラにカスタムピクチャーコントロールとして登録することができる。

現在フレキシブルカラーを登録できるカメラはZ50Ⅱ、Z5Ⅱ、Zf、Z6Ⅲ、Z8となっている。一眼レフ機や対応していないカメラの場合でも、NX Studioのカラープロセスから最新のピクチャーコントロールを選ぶことで、RAW画像に対してフレキシブルカラーが使用できるようになる。

**3つの項目を使って
幅広い色調整が可能**

フレキシブルカラーの魅力は、カメラのホワイトバランスやピクチャーコントロールの微



シンガポールで感じた朝の清々しさを色で表現してみた。コントラストを弱めになるようにトーンカーブを調整し、空の色はカラーブレンダーを使いシアン寄りになるように設定して撮影している。

調整だけでは調整できなかった色味や色相、色ごとの調整などができる点だ。フレキシブルカラーは「詳細調整」「カラーブレンダー」「カラーグレーディング」の3つの項目を調整することで独特の色を表現できる。

「詳細設定」ではシャープネスやコントラストの調整ができる。特に筆者のオススメは、カスタムトーンカーブが使える点だ。ハイライトやシャドウの調整ができるので、コントラストの強い画像はもちろん、ピクチャーコントロールにはあまりないコントラストの低いやわらかい印象にも調整できる。さらに「カラーブレンダー」を使うと、8種類の色から特定の色を調整可能だ。セレクトした色に対して、色相、彩度、明度のパラ미터を用意。たとえば上の作例のように、空の色を見た目どおりの青からさわやかな印

象のシアンが強めの青に変更することもできる。

そして、筆者が最もよく使うのが「カラーグレーディング」だ。カラーグレーディングはハイライト部、中間部、シャドウ部の色味と明るさを調整できる。一般的に色を調整するのはホワイトバランスだが、ホワイトバランスを触ると画像全体の色に変化する。一方、カラーグレーディングの場合は輝度に合わせて色を調整することが可能。ハイライトにアンバーを入れたり、シャドウにティール（青緑）を入れたりして、シネマチックな表現もできる。

このように、フレキシブルカラーを使うことで自分好みの色をさらに表現しやすくなり、カメラに記録することでリアルタイムに自分色を表現できるようになる。ぜひ挑戦していただきたい。

秋山華子 × Z 50II



Z50 II ・ NIKKOR Z 26mm f/2.8 ・ f/2.8 ・ 1/4000秒 ・ ISO125

石畳の静けさをすり抜け、
門の先に流れる光と影に
ふたりの足音が溶けていく。
Z50 IIの軽やかな機動力が、
風のように寄り添い、
その一瞬を捕まえた。